

平成30年12月21日(金)

冬の月

明日、12月22日は、満月であります。冬の満月は、澄み切った空気の中に、ことさら輝く光が明るく、帰宅してカギを開ける手を照らす懐中電灯がなくてもよいくらいの輝きで、あの月はもしかしたら、異世界といいますかパラレルワールドへの通り道ではないかと思えるくらい、不思議な心持になるのです。

2011年の12月は、父が労災病院に入院して、19日に亡くなったのですが、その時も、白い大きな月が東の空から上がってきて、あの通り道を通って行くのかとしみじみ見つめていたことがありました。

村上春樹の「1Q84」という小説には、月が二つある世界が描かれます。それは、今現在のパラレルワールドという設定で、混雑している高速道路から下に降りる階段がその世界の入り口となりました。

入り口があるなら、出口がきっとあり、始まりがあるなら必ず終わりがある。村上春樹の小説に共通している世界観は、そのバランス感覚です。

明日の満月に、忍耐と我慢の先にある達成感の道筋を少しでも感じることができるなら、それはそれで少しホッとする気持ちになるに違いないと思います。

